

第1回全体調整会議 議事概要(案)

- 日 時 平成 21 年 11 月 27 日 (金) 15 : 10 ~ 17 : 40
- 場 所 合同庁舎 4 号館 742 会議室
- 出席者 津村政務官、相澤議員、本庶議員、奥村議員、白石議員、今榮議員、青木議員、藤田政策統括官、梶田審議官、岩瀬審議官、大江田審議官

○議事概要

1. S A B C の優先度判定等の全体像 (各分野別の判定割合等) について

→相澤議員より説明

2. 各分野における優先度判定等について

→各分野における優先度判定等の原案について、各担当議員の方から、施策概要、ヒアリング時におけるコメント、優先度判定等の結果及びその理由等について説明。主なやりとりの概要は以下のとおり。

【各判定分野の分類について】

(津村政務官) ライフや情報通信といった分野は分かりやすい一方で、社会基盤、フロンティア、競争的資金や大学といった分野は分かりにくい。これらの分野の分類から抜け落ちている施策はないのか。

(相澤議員) 分類から抜け落ちる事はなく、網羅的にカバーしている。社会基盤やフロンティアは第3期科学技術基本計画における重点8分野に位置づけられており、それに沿ったもの。また、人材育成や地域活性化については、同基本計画において「社会システム改革」と位置づけられている。一方で、「グリーンイノベーション」の分野はこれまでの技術分野の整理ではなく、目標の達成のために貢献できるか否かという課題解決型の概念である。

【「判定せず」の施策について】

(津村政務官) 取りまとめシートの中に、「判定せず」という施策が、1施策含まれているが、その理由は何か。

(相澤議員) G X ロケットについては、8月末の時点の概算要求を精査する際に扱いについて検討した結果、高度に政治的なものであり、総合科学技術会議で判断できる範疇を超えているという判断に至った。

(藤田統括官) G X ロケットの評価については、12月末までに宇宙開発戦略本部がニーズを調査した上で検討結果を出すことになっている。

(津村政務官) そのようなことであれば、優先度判定等の理由にもそのように記述をした方が良い。

【産学官連携・地域活性化関係施策について】

(白石議員) 優先度判定を通じて感じたのが、産学官連携・地域活性化関係施策について、多くの省が非常に多くの施策を実施しており、十分に整理されていないという印象を受ける。

(相澤議員) そのような場合、来年度についてはすぐに改善できないとしても、科学技術政策の全体を担う内閣府がコメントしても良いのではないか。「総括的見解」の中に含めて記述するということを検討してはどうか。

【沖縄科学技術大学院大学の開学準備事業について】

(津村政務官) 見直しをすべき点が多いとすれば、もっとコメントの中に計画の見直しを含む文章を記述したらどうか。

- (白石議員) その観点で優先度の理由について改善すべき点を強調して記述した。一方で、「減速」と記述するには、もう少し大学院大学の関係者 (Board メンバー) に聞いてみて、実態を良く見極めた上で判断すべきであると考えます。
- (本庶議員) 本事業は内閣府沖縄部局が行っており、ヒアリングの際には当該部局に来ていただいたが、内閣府沖縄部局から話を聞く範囲ではこれが限界。将来実際に地元関係者の声も聴かないと検証できない。
- (津村政務官) そうであれば、優先度判定を決定する前に、総合科学技術会議議員から直接地元関係者等との意見交換の機会を設け、厳しく対応することを検討して下さい。

3. パブリックコメントの優先度判定等への反映状況について

- (相澤議員) 現時点でこれだけのパブリックコメント (以下「パブコメ」という。) が出てきているが、パブコメを優先度判定に反映する方法について議論したい。パブコメの反映状況について目に見える形にするために、パブコメのうち、主要なものをピックアップして、各施策のとりまとめシートについて欄を設けるなどして記述することも考えてはどうか。
- (白石議員) 私が主担当の分野については、いただいたパブコメは逐一見させていただいたが、ごもっともだという意見が沢山あった。私としては、「SABC」といった優先度そのものまでには変えるには至らないが、いただいたパブコメを踏まえ、コメント (優先度判定等の理由) の原案に盛り込んでいくつもりである。
- (本庶議員) パブリックコメントをピックアップする際に、主担当議員としてある種の忖度が働くことと思うが、それでよいのか。
- (津村政務官) 私の意見としては、白石議員の言うとおりの原案のコメントに主担当議員の判断で適宜盛り込むことで良いのではないかと考える。また、提出された全てのパブコメ一覧について公表することが重要。そうすると、施策一覧・パブコメ一覧・優先度判定と全てのプロセスについて繋がると思う。

4. 詳細な見解付け (競争的資金・国家基幹技術・社会還元加速プロジェクト) について

→各担当議員の方から、見解付けの内容について説明。

【国家基幹技術について】

- (奥村議員) 単年度だけの予算だけでは事業の全体が見えず、事業総額をいれるべき。海洋地球の概要説明図は、内容が多岐に亘り分りづらい。国民に分りやすいように簡素化するなど工夫してはどうか。

【科学研究費補助金について】

- (本庶議員) 科学研究費補助金の格段の重要性に鑑み、「100 億円増額すべき」という記述にさせていただいた。
- (相澤議員) これまで、優先度判定等において「定量的にどれだけ増額すべき」と記述していなかったため、それとの関係はどうかと考える。
- (奥村議員) 内閣府は研究予算を持たない中、定量的にどれだけ増額すべきと言うことが適切かどうかという問題がある。私は記述すべきでないと思う。
- (本庶議員) 各議員の趣旨は理解した。「格段の増額が不可欠」といった定性的なコメントとする。

【科学技術振興調整費について】

- (相澤議員) 調整費も含め、もっと多額のものなど、各省が概算要求する前に検討すべきものもあるのではないかと。目的を明確にし、効果的な手法もあるのではないかなど、第4期に向けての検討と併せて検討する。

(以上)